

【京都府市町村教育委員会連合会会長賞】

地域の行事を通して感じること

舞鶴市立加佐中学校 2年 南 風歌

みなさんの住んでいる地域には、「祭り」はありますか。「祭り」は好きですか。

私の住んでいる舞鶴市の神崎は、若狭湾国定公園に指定されている海水浴場があり、夏になるとたくさんの方が訪れます。神崎は、江戸時代後期には、海運業と「塩づくり」で栄えていました。でも、今は子どもが減り、神崎には私の同級生はいません。近くにあった神崎小学校も閉校になり、中学校へはスクールバスに乗って通っています。けれども優しい大人の方々がいて、とてもいいところですよ。

そんな神崎には伝統的な行事がたくさん残っています。例えば、「山の神」という男の子だけの祭り。「花祭り」という、女の子だけの祭り。そして、地域をあげての「村祭り」です。「花祭り」は少ない人数で、何とか行っていますが、「山の神」は、男の子が少なくなり、もうできなくなりました。

「村祭り」も昨年太鼓をたたいた子供は六人いたのですが、今年は5人に減り、今後はどうなるか分からない状況です。でも、私は、この祭りが大好きです。

この祭りは、「湊十二社」という神社のお祭りで、毎年10月の第2土曜・日曜に2日間にわたって行われています。

1日目は、「宵祭り」といって、大人の男の人たちは、朝は「神楽」で家々をまわり、夜は神崎中を踊り歩きます。子どもは、「おみこし」で神崎中を練り歩きます。

2日目は、「お船曳」と、私たち子どもの太鼓の奉納があります。「お船曳」とは、神崎が海運業で栄えていた時に使われていた「北前船」を曳いて村の中を回ることです。この船は、普段は神社の中に奉納されていますが、この祭りの時だけ、出されます。

こんな神崎の祭りですが、昔はもっと、人がいて、太鼓をたたく子どもも、小学生の男の子だけでも、たくさんいたので、くじ引きで決めていたそうです。踊りを踊る青壮年の大人も60人ほどいて、「子どもみこし」も2つあったそうです。

でも、今は、太鼓をたたくのは小学校中学年から中学生の男女が総出でたたいています。それでも足りないくらいです。青壮年の人も少なく、みこしも1つしか使っていません。昔は、屋台のお店もあり、祭りに出る人も、見物する人もたくさんで、今よりにぎやかだったそうです。

私は小学校3年生から祭りに参加していますが、だんだん太鼓をたたく人も減ってきていて、このままだと、いつかなくなりそうで心配です。海運業が盛んだったころ、海の安全祈願のために行われていた伝統ある祭りです。長い歴史の中でたくさんの人々の手によって守り、受け継がれてきたものなのだから、私たちが受け継ぎ、次へ伝えていくことが大切だと考えています。

私がそう考える理由は、祭りは、地域の老いも若きも、みんなが集まり、世代を超えて楽しめる行事だからです。祭りの日には、成人して地域を出た人たちも戻ってこられ、みんなで楽しめます。祭りには人と人をつなぐ力があるといえます。

また、練習も含めて、貴重なコミュニケーションの場でもあります。そこでは地域のおじさんと、学校のことや、部活動のこと、昔のことなど、いろんなことを話しています。この貴重な時間をなくしたくは、ありません。

最後の理由は、単純に私が祭りが好きだからです。みんなではしゃいで、笑って、言葉ではうまく言い表すことができませんが、とても楽しく、何とも言えない高揚感があります。

今年も、祭の季節がやっていました。せっかくここまで続いた伝統をここで崩さないように、私は、これからも祭りに参加し続け、大好きなふるさとの伝統を守り、つないでいきたいです。